



森と光が織りなすうるおいのまち伯耆町



家庭教育ハンドブック

前期編



～自分からすすんで学ぶ子どもを育てる～

監修／国立大学法人鳥取大学 副学長 矢部 敏昭

伯耆町教育委員会

監修に当たって

伯耆町教育委員会の努力により，ここに「家庭教育ハンドブック」が刊行されることを大変うれしく思います。輝く未来を生き抜く子ども達のために作られたこのハンドブックが，伯耆町のお子様を持っているご家族の家庭教育に生かされ，伯耆町の未来を担う子ども達の健やかな成長の一助になることを心から願うものであります。

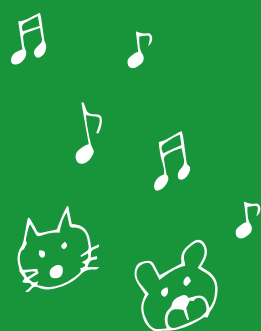
子ども達の「自立」に向けて，この時期に大切なのは自分の好きなことややってみたいことに対して，子ども達のことを尊重してその好きなことややってみたいことを促してあげることだと思われます。それは，好きなことややってみたいことに取り組む過程には“夢中”になる行為と“集中”する行為が生まれるからです。なぜならば，それらの行為は子ども達のもので行動に移しているからです。そして，その意思が次第に主体的に学ぶ「意欲」や「やる気」につながるのです。

伯耆町の森と光が織りなす大自然の中で，時間を忘れて遊ぶことや友達と楽しむこと，また家庭の中で静かに絵を描くことや学校で習った文字を何度も丁寧に書くことは，自然や物，そして人や社会との関わりを持つこととなります。

「自立」へ向けた第一歩は，子ども達が信頼する人々に見守られながら，自らの意思を行動に移し続ける一つひとつの行為が子ども達の感受性と主体性を生むことにつながると思われてなりません。

平成 28 年 12 月
 国立大学法人鳥取大学
 副学長 矢部 敏昭

もくじ



・ 保護者のみなさまへ	3
・ 家庭教育の大切さ	4
・ 小学校入学前	5
・ 小学校 1 年生	6
・ 小学校 2 年生	8
・ 小学校 3 年生	10
・ 小学校 4 年生	12
・ 伯耆町の学校教育	14

保護者のみなさまへ

「心が安らく楽しい家庭」は、子ども達の成長にとってかけがえのないものであり、家族だれもが望んでいるものです。子ども達ができることが、ひとつずつ増えるたびに、家族みんなでよろこび合う、そんな笑顔があふれる家庭をだれもが求めています。

それに加えて、家庭は学校、地域社会とならんで、子ども達が育つための学びの場でもあります。子ども達は、生まれてから、家庭で最初に学び始め、その後もずっと家庭に帰ってからも学びます。子ども達は、空気を吸うように、家庭からとても大きな影響を受けて成長していきます。その意味で、教育の原点は家庭にあるといわれています。

子ども達の「自立」に向けて、家庭・学校・地域社会がスクラムをくんで、それぞれの役割を果たしていく必要があります。伯耆町の子ども達を、みんなで見守り、みんなで育てていきましょう。

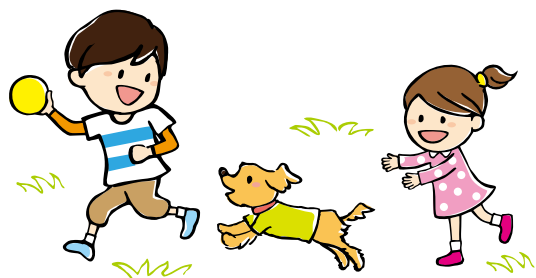
この『家庭教育ハンドブック【前期編】』は、小学校入学前から小学校4年生の子どもを持つ、保護者や家族の方を対象につくられました。今後、子ども達の成長に応じて、今後、【中期編】(小学校5年生～中学校1年生対象)、【後期編】(中学校2年生～中学校卒業後対象)を手にしていただくこととなります。

教育には、決してマニュアルはありません。みんなが手さぐりで子ども達と接しています。苦労はないとはいいませんが、子どもの成長を実感したときの喜びはひとしおです。この冊子を折にふれて開いていただき、少しでも子育てのヒントを読みとって、保護者のみなさまオリジナルの『家庭教育ハンドブック』をつくる助けとなればと願っています。

お問い合わせ先

伯耆町教育委員会事務局

所在地 〒689-4292
鳥取県西伯郡伯耆町溝口647
電話番号 0859-62-0927
ホームページ <http://www.houki-town.jp/>



家庭教育の大切さ

家庭で自分からすすんで学ぶ子どもを育てる

大人になることは、「自立」することです。経済的な自立と同時に、精神的にも自立した人を「大人」といいます。「自立」するためには、多くのことを身につけなければなりません。そのために人は学びます。「学び」とは、狭い意味の勉強も含みますが、ここではもう少し広い意味があります。例えば、逆上がりができるように練習することも、友達との関係がうまくいくように考えることも、「学び」といえます。「学び」とは、今の自分に足りないこと、これからの自分に必要なことをわかったうえで、自分ができることを、新しくつけ加えていくことです。できることがつけ加わることも大切ですが、つけ加えるように努力するプロセスにも意味があります。学校教育を卒業し、「社会人」ともなると、自分からすすんで学ぶことが求められます。私たち大人は、自分からすすんで学べるように、子ども達を教育する必要があります。そして、子ども達が、「自立」に向けてどれくらい育っているのか、家庭での「学び」のようすを見ながら判断していくことが大切です。



学ぶ意欲を高める

「意欲」、「やる気」、「モチベーション」、いろいろないい方がありますが、自分からすすんで学ぶ子どもを育てるうえで、とても重要な要素です。学習意欲が高まるのは、主として次の3つのケースが考えられます。

- 1 **学ぶことで、自分が信頼する人と関わりがもてるのがうれしい。**
- 2 **学ぶことで、わかること、できるようになることが楽しい。**
- 3 **学ぶことで身についたことが、自分にとって役に立つと信じている。**

この①～③の3つがからまって、学ぶ意欲が高まっているのですが、この【前期編】で特に注目していくのは、①の人との関わりです。

この時期の子ども達は、学校では友達と一緒に授業に参加できることに喜びを感じ、先生からほめてもらうことでますますやる気を出します。人との関わりの中で、学ぼうとするのです。家庭でも、家族が目をかけ、声をかけ、手をかけることが必要な時期です。家庭学習といっても、宿題と簡単な予習・復習で十分だと思います。できるかぎり、家族も関わってください。その関わりによる学びの土台づくりが、後の「自立」に向けて大きな役割を果たしていきます。

小学校

入学前



子ども達は身近な大人の姿をまねて育つ

乳幼児期の子ども達にとって、保育所・幼稚園と同様、家庭は重要な「学びの場」です。学校教育が始まるまでに、そのベースをしっかりと築いておく必要があります。生活リズムと適切な遊びをとおして健康な身体をつくり、体力をつけること。良いことと悪いこととを区別し、思いやりの心をもつこと。メディアからの受け身の情報におぼれることなく、実物への好奇心をもつこと。これらを身につけさせる上で最も効果的な方法は、家族がしてみせるということです。幼い子ども達にとって、言葉は入りにくい面があります。「挨拶ができるようになってほしい」と思うなら、挨拶をして見せることです。「人にやさしくなってほしい」と思うなら、それを具体的な行動で見せることです。子ども達は「親がどうふるまうかを常に見ている」ということを意識し、日々の積み重ねが、子ども達の心と体のベースを育てていることを決して忘れてはいけません。

鳥取大学副学長 矢部敏昭教授がすすめる 「教育スタンダード 望ましい保護者のあり方」



- ・ 学校での様子や友達関係について、親子で会話する。
- ・ 勉強のしかたや成績について、いつも相談にのる。
- ・ 礼儀作法, 秩序, 道徳観について、いつも親子で話し合う。
- ・ 子どもの夢や将来について、いつも親子で話し合う。
- ・ 学習計画を子どもが立てられるように、いつも関わる。
- ・ 家族で共有する時間をもち、家庭でのコミュニケーションを大切にしている。
- ・ 日常的に、家の手伝いや役割を子どもにもたせている。
- ・ 子どもが、自然にふれたり、体験したりする機会を定期的にもつようにしている。

小学校入学までに これだけは身につけさせましょう!

- ☆えんぴつ・はしが正しくもてる。
- ☆ぞうきんをしぼることができる。
- ☆朝、6:30までに自分で起きられる。
- ☆ちょうちょ結びができる。
- ☆よばれたら「はい」と返事ができる。
- ☆自分からあいさつができる。



菜の花とJR(岸本)

小学校

1年生



小学1年生の時期の特徴

- ・一人で家庭学習をやりきるためには、家族の手助けが必要です。
- ・成長には個人差があります。過度の心配をせず、長い目で見守りましょう。
- ・いろいろなことに興味をもち何でも知りたがり、まわりの大人の行動をまねることから、「なぜなぜ時代」「まねっこ時代」といわれます。
- ・「早寝早起き」「朝ごはん」「朝の排便」「正しい姿勢」などの基本的な生活習慣と学習習慣や体力向上と強く結びつきます。

伯耆町の子ども達が つまずきやすい学習ポイント

～過去の各種学力調査結果から～



国語

- おたがいの話を集中して聞き、話題にそって話し合うことができる。
- 場面の様子について、登場人物の行動を中心に、想像を広げながら読むことができる。
- 助詞の「は」「を」「へ」を、文の中で正しく使うことができる。

算数

- 10の合成を理解し、10になる組み合わせを選ぶことができる。
- 位取り記数法を理解できる。
- 文章問題を読みとって、問題を解くための式をつくることができる。
- 方向や位置に関する言葉を理解している。

家庭学習の ポイント

学習時間のめやす20分～30分
家庭学習を始める前に



保護者
チェック欄

①学習をする
場所の整理
整頓をさせる。

②学校からの
プリント類を一緒
に確かめる。

③今日の宿題を
一緒に確かめる。

④えんぴつの
正しい持ち方を
教える。

宿題を最後までやりきる子ども

はじめは、親子で一緒に宿題をすることにより、最後までやりきることの心地よさを体験させましょう。この時期に「宿題を最後までやりきること」を習慣化させることが重要です。ひとりで宿題ができるようになったら、最後までやれているかどうか家族の目で点検してみてください。



子どもの意欲をひきだすには

あらゆることにおいて、まわりの大人が目をかけて、言葉をかけて、手をかけることが大切な時期です。そして、「小さなことでもできたらほめる」ということが何よりも心の肥しになります。例えば、本を開こうともしない子どもでも、親が本を開いていれば、自然に近づいてきて自分も本を開いているようなことがあります。逆に、親が夜おそくまで、ゲームやメールに熱中していれば、子ども達も同じような生活になることもあります。この時期の子ども達はもともと活動の意欲に満ちています。その意欲をどのように引き出すかは、家族の生活にかかっているととってもよいでしょう。

お父さんや
お母さんに
読んでもらうより、
自分で読むほうが
楽しくなってきた！



食事と外遊びで元気な身体に

「早寝・早起き・朝ごはん」が強調されています。なかでも朝食をとることによって、身体にエネルギーを補給し、集中力ややる気、体力を持続させることができます。朝食だけでなく、心身の成長期にある子ども達にとって、栄養バランスのとれた食事はとても重要です。肥満傾向や生活習慣病の若年化などの健康問題は、欠食や偏食に原因があります。心をこめてつくった食事で、身体の栄養とともに心の栄養もつけてあげましょう。



また、近年、本町の子ども達の体力・運動能力調査の結果を見ますと、県平均にとどかない項目が多く見られます。学校教育でも指導改善を図っているところです。家庭では、外に出て駆け回るような遊びが減ってはいないでしょうか。遊びは子ども達の心と身体の成長にとってとても大切です。休日には子ども達を町内の施設や豊かな自然環境の中へ連れ出して、「疲れたけど楽しかった」をいわせるような体験をさせてください。

わが子だけでなく 地域の子どもの育ちも見守る

子育ては母親だけのものではありません。この時期だからこそ、子どもと一緒に遊ぶ父親の姿勢が大切です。「わが子の父親」から「地域のおやじ」として、子育てに関わり、親の背中をしっかりと見せましょう。PTA活動、子ども会活動、おやじの会などに進んで関わり、次の休日が待ち遠しくなるような体験を子ども達と共有してください。地域で子ども達の健やかな成長を見守りましょう。

マウンテンストリームきしもと(小林)
撮影者：後藤 栄



小学校

2年生



小学2年生の時期の特徴

- ・2年生になると、1年間の学校の流れを経験し、見通しがもてるようになります。
- ・男女による違いや、仲良しかそうでないかにこだわらずに遊びます。
- ・学校や友達の様子をすすんで話すようになります。子どもの話にしっかりと耳を傾けてください。
- ・できることは自分からしがります。自分のことは自分でする習慣をつけるのによい時期です。
- ・はしやえんぴつの正しい持ち方は、この時期までに身につけさせましょう。日頃から意識してアドバイスをし、できればほめて、根気よく声かけをしましょう。

伯耆町の子ども達が つまずきやすい学習ポイント

～過去の各種学力調査結果から～



国語

- おたがいの話を集中して聞き、話題にそって話し合えることができる。
- 場面の様子について、登場人物の行動を中心に、想像を広げながら読むことができる。

算数

- 分数で大きさを表すことができる。
- 数直線上に示された数を読みとることができる。
- かけ算の式から適切な文章問題をつくることができる。
- 2けた-1けた=2けたの引き算を使って、文章問題を解くことができる。
- 2けた-2けた=2けた（繰り下がり1回）の計算ができる。
- 立方体の辺と頂点の数を理解している。
- 正方形や直角三角形の特徴を理解している。

家庭学習の ポイント

学習時間のめやす30分～40分
家庭学習を始める前に



保護者
チェック欄

①学習をする
場所の整理整頓
をさせる。

②学校からの
プリント類を一緒
に確かめる。

③今日の宿題を
一緒に確かめる。

④えんぴつの
正しい持ち方を
教える。

宿題を最後までやりきる子ども

宿題はできるだけきまった時間にさせるようにしましょう。テレビ等を消して、集中できる環境づくりも大切です。そして、最後までできているかどうかを家族の目で点検し、できていたらほめてあげてください。



「しかる」と「おこる」の区別

子どもを「しかる」と「おこる」とはどう違うのでしょうか。「しかる」というのは、なぜいけないかをわからせることで、自立心を育てるためにも必要なことです。一方、「おこる」とは、親が自分の感情をコントロールできずにぶつけることです。ですから、おこられて育つと子どもは自分を否定し、親の顔色をうかがって物事を判断するようになります。

しかし、私達は人間です。おこることを完全になくすことはできないと思います。では、どうしたらいいしかり方ができるのでしょうか。

ひとつの方法として、まず子どものやったことを認めたいうえで、親の気持ちを伝え、目を見て言い聞かせるというしかり方があります。そのとき、できるだけ否定的な言葉を使わないように気をつけることです。子ども達は人間的に成長していきます。肯定的に人生を歩めるように導いていけたらと考えます。ある小児科の先生は、「しつけはしつけ糸のようにゆるく」ということをおっしゃっています。あまり片意地ははらず、楽な気持ちで接することも大切です。

しかる？

おこる？



子どものサインを見逃さない

いじめや不登校につながる悩みなど、子どもが心の問題をかかえたとき、言葉にできればよいのですが、身体や行動に表れることがよくあります。

「我が子がいじめを受けている」「我が子が不登校になっている」など親が過剰に心配しすぎて、子ども達をその気にさせてしまうというケースもありますが、サインを見逃す、あえて認めないといったことで、事態を悪化させるケースもあります。

子ども達が見せるサインには、腹痛、吐き気、下痢、食欲不振、めまい、頭痛・発熱といった症状や過食、拒食、不眠といった行動などがあります。「気のせい」「わがまま」「ズル休み」といった言葉で片づけず、様子をよく見て、話をよく聞き、理解しようとする姿勢が大切です。また、かかりつけの医師や学校の先生にも早めに相談することで、問題の早期発見につながる場合があります。



上野堤からの町民の森(上野)
撮影者:後藤 栄

小学校

3年生



小学3年生の時期の特徴

- ・何でも見たい、さわりたいと好奇心が強くなり、行動範囲も広がります。
- ・自立する心がめばえ、自分でやってみようとするものが多くなりますが、まだ手助けは必要です。
- ・友達みんなと行動することを好むとともに、くちごたえをするなど反抗が少しずつみられるようになります。
- ・学校の授業では、「生活科」がなくなり、「社会科」、「理科」、そして「総合的な学習」が始まり、学習内容が広がります。

伯耆町の子ども達が つまずきやすい学習ポイント

～過去の各種学力調査結果から～



国語

- おたがいの考えの共通点や相違点を考え、司会者や提案者などの役割を果たしながら、話し合えることができる。
- 目的に応じて、中心となる語句や文をとらえ、段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて文章を読むことができる。
- ローマ字を読み、書くことができる。
- 文の構成（主語・述語）について理解している。
- 国語辞書の使い方を理解している。

算数

- 小数のしくみを理解し、小数第一位＋整数の計算ができる。
- 3けた×2けた＝4けたのかけ算ができる。
- 2けた×1けた（余りなし）のわり算ができる。
- 球の半径から、球が入る箱の辺の長さを求めることができる。

家庭学習の ポイント

学習時間のめやす40分～50分
家庭学習を始める前に



保護者
チェック欄

①学習をする
場所の整理整頓
をする。

②学校からのプリント
類をその日のうちに
親に手渡す。

③今日の宿題と
明日の授業の準備を
自分で確かめる。



宿題以外の自主学習ができる子ども

自主学習を始める時期です。「自主学習ノート」を用意して、言葉の意味調べ、計算練習、社会や理科の調べ学習など、とりくみやすい学習から始めることが大切です。身のまわりのことに興味をもつという意味では、自然観察やお手伝いなども自主学習のひとつです。その際にもノートに記録するなど、成果として目に見えるようにすると意欲につながります。

食事の時間に家族の会話を

食事の時間は家族が集まることが多い時間です。ふだんはつつい忙しさにまぎれて、言っぱなしや聞きっぱなしになってしまっていることを、テレビを消して顔を見ながら話し合ってみましょう。学校での様子や遊び、友達のことなどを話す中で、気持ちや考えが伝わり、家族の絆を深めるよい機会になると思います。そもそも、人は愛され、理解されたがっているものです。自分に目を向け、深い関心をもっているという親の態度によって、自分が愛されていることを実感し、気持ちが安定するのです。

また、この頃の子ども達は、善悪の判断や物事の見方をまわりの人の様子から学び取ります。家族との会話の中から、「あの時、そうすればよかったんだ」といった気づきもてるように話をするとストーンと心におちることが多いのではないのでしょうか。



友達の事、
学校・勉強の事、
いろいろな話で
家族の絆を
深めましょう。



特別な支援が必要な子ども達

家庭や学校で、「言葉のやりとりがうまくいかない」「いつまでも落ち着きがない」「努力しても漢字が覚えられない」など、年齢にふさわしくない行動や様子が見られることがあります。子どもによって発達の違いがありますので、過度の心配はいりません。しかし、担任の先生から話があったり、まわりの子どもと極端な違いが見受けられたりする場合には、「発達障害」を疑ってみることも必要です。

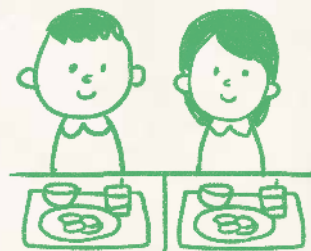
発達障害は、生まれつきのものであり、子育てのしかたに原因があるわけではありません。しかし、適切な支援をしないことによって、学校がきらいになったり、友達とトラブルをくりかえしたりといった困難が生じてきます。まずは、学校の先生に相談をしてみることをよいと思います。必要に応じて、医療にかかることもあるかもしれませんが、だれよりも子ども達自身が楽になり、意欲的に学習に取り組めるようになったケースが多くあります。

地藏滝の泉(丸山)
撮影者：後藤 栄



小学校

4年生



小学4年生の時期の特徴

- ・小学校3年生と同様に、「知りたがり屋」「やりたがり屋」の時期であり、特定の趣味やスポーツに熱中するようになります。
- ・自転車で遠くの友達の家に行ったり、時には電車やバスを使って大型スーパーまで行ったりすることも見られます。
- ・良いことであり、悪いことであれ、友達みんなと集団で行動することが多くなります。時には、いたずらや危険な行為で心配をかけることも出てきます。
- ・親離れがすすみ、小言や意見を言っても、うるさがることがふえてきます。

伯耆町の子ども達が つまずきやすい学習ポイント

～ 過去の各種学力調査結果から～



国語

- おたがいの考えの共通点や相違点を考え、司会者や提案者などの役割を果たしながら、話し合うことができる。
- 目的に応じて、中心となる語句や文をとらえ、段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて文章を読むことができる。
- 文の構成（連体・連用修飾語）について理解している。

算数

- けた数が多い概数の表し方を理解している。
- 整数÷整数で商が1よりも小さくなるわり算の筆算ができる。
- 小数第二位—小数第三位（答えが純小数）の計算ができる。
- わる数と余りの関係を説明することができる。
- ともなって変わる2つの数量の関係を式にすることができる。
- 四則混合で（ ）を用いた式の計算項序を理解している。
- 立方体の展開図について理解している。
- 与えられた2つの辺をもとに、ひし形を作図することができる。

家庭学習の ポイント

学習時間のめやす50分～60分
家庭学習を始める前に



保護者
チェック欄

①学習をする
場所の整理整頓を
する。

②学校からのプリント
類をその日のうちに
親に手渡す。

③今日の宿題と
明日の授業の準備を
自分で確かめる。



宿題以外の自主学習ができる子ども

学習塾や習い事、スポーツ少年団活動がある子ども達は、宿題をやりとげるだけでも大変だと思えます。その上に自主学習をするためには、時間の使い方が大切です。特に、テレビやゲームの時間を決めてさせましょう。干渉を好まない時期ではありますが、親に見守られている安心感は必要です。どのような自主学習をしているか、関心をもって親子の会話をしましょう。

2分の1 成人式

「2分の1成人式」という言葉をご存知でしょうか。20歳の成人式の2分の1で、10歳を「2分の1成人式」とよんでいます。

本町の多くの小学校では、総合的な学習の時間の取組として「2分の1成人式をしよう」という一連の学習の時間を設けています。この学習の最後には、成果発表として家族を学校に招いて、10年間の自分の成長、将来の夢や希望、家族へのメッセージを一人ひとりが発表するという時間が設けられます。日頃は思っても照れくさくて伝えられなかった思いが伝えられるのではないのでしょうか。

20歳の成人式もそうだと思いますが、人生の節目で、これまでを振り返り、これからを見渡すことが大切です。そして家族で会話をして、思いをわかちあうことが必要だと思います。子どもが自分の夢を語り、それを家族に受けとめてもらったという体験が、その後の意欲を支えていくのです。

10歳 = 「2分の1成人式」



万引きはゲームではなく**犯罪**

「スリルや刺激を求めて」「ゲーム感覚で」「仲間がするから」といった理由で万引きなどの非行に手を染める子ども達が出てきます。しかも、その多くは「悪いことをしている」という罪悪感がほとんどない場合があります。

親として、子どもが悪いことをしたら、「悪いことは悪い」とはっきり伝え、万引きや自転車泥棒などはれっきとした「犯罪」であることをしっかりと理解させましょう。

また、子どもが万引きなどをしてしまったときには、本気でしかり、子どもといっしょに、迷惑をかけた人にきちんと謝るなど、子どもが心から反省し、二度と非行にはしないように決意をするようにさせましょう。最初の対応がその後を決めます。



畦高(アゼダカ)の椿(福岡)
撮影者:後藤 栄

伯耆町の学校教育

「地域とともにある学校づくりを 基盤とした保小中一貫教育の推進」

本町の小中学校の教育のキーワードは、「保小中一貫教育」と「コミュニティ・スクール」です。この2つについて保護者の皆様にもご理解をいただきたいと思います。

「保小中一貫教育」

本町の2つの中学校区（岸本中学校区・溝口中学校区）では、保育所、小学校、中学校の保育士・教職員が話し合いをもち、義務教育修了までにどのような子どもを育てるのか（これを「目指す人間像」と呼びます）を共有して、日々の保育・教育に取り組もうとしています。特に、小学校と中学校では、どの時期に、どのような内容を、どのような方法で教えるのか（これを「一貫カリキュラム」とよびます）について、おたがいに理解しあった上で、学力がより確実に定着するための工夫をして授業を行っています。また、総合的な学習の時間をつかって、地域のことについて学ぶ「地域学習」と自分の生き方について学ぶ「生き方学習」（これらをあわせて「伯耆I学習」と呼びます）を、各学校で共通して実施しています。広い意味での学力である人間力を育てようとするねらいがあります。このように、保育所から義務教育9年間を通して、一貫性をもった教育を行うことから、保小中一貫教育といわれています。

「コミュニティ・スクール（CS）」

平成30年度から、本町のすべての小中学校がコミュニティ・スクールに指定されます。学校は、校長を中心として運営されていくのですが、そこに保護者や地域の方々、専門的知識をもつ方々の視点を取り入れていくのがコミュニティ・スクールです。複数のメンバーで構成される学校運営協議会が設置され、校長の運営方針について協議し、承認を行います。また、教職員人事について意見を述べることもできるしくみになっています。本町では、学校が抱える課題について話し合ったり、学校に対して地域や保護者の方々がどのように協力できるのかを話し合ったりすることが行われています。コミュニティ・スクールは「地域とともにある学校づくり」の中心となる取組です。

他にも、本町には次のような組織があります。

「伯耆町CSネットワーク会議」

各コミュニティ・スクール（CS）の間の横のつながりを形づくるために、中学校区ごとに3校ずつで、中学校区CSネットワーク会議を開いています。各学校の学校運営協議会の代表者3名ずつが集まり、中学校区の「目指す人間像」を共有し、その実現に向けて話し合いを行います。さらには、2つの中学校区を超えて取組について情報交換を行い、伯耆町全体としての「目指す人間像」を共有していくために、各中学校区のネットワーク会議のメンバーで、伯耆町CSネットワーク会議を組織しています。コミュニティ・スクールの取組の中に、保小中一貫教育の視点を取り入れて、地域総ぐるみで子ども達の育ちを支えていくことをねらっています。

「学校支援地域本部」

本町の学校では、多くの地域ボランティアの方が、授業で子ども達に関わったり、登下校で子ども達を見守ってくださったりしています。このような学校教育を地域の方々が支えてくださる組織を学校支援地域本部とよんでいます。地域ボランティアの方はそれぞれの得意分野で登録をいただいています。その中から、学校の要望に応じて支援をしていただくわけですが、学校と地域ボランティアの間をとりもって調整をする役割が必要になります。それがコーディネーターです。現在、教育委員会事務局に地域コーディネーターを1名配置し、各学校にも1名ずつの学校支援コーディネーターを配置しています。今後は、学校と地域がお互いに支援・貢献できるようなパートナーとなる方向を考えています。

「家庭教育支援チーム」

保育所から中学校までの幅広い保護者の皆様に、家庭教育の役割について再確認していただき、子ども達の育ちに積極的に関わっていただくために、家庭教育支援チームが組織されています。福祉課と教育委員会事務局が連携しながら、家庭における子育てについてさまざまな視点からアドバイスを行うこととしています。構成メンバーも、家庭教育推進員、保健師、子育て支援センター・教育支援センター職員、スクール・ソーシャル・ワーカー、スクール・カウンセラーと専門的な機能をもっています。



発行 平成28年12月
編集・企画 伯耆町教育委員会
所在地：鳥取県西伯郡伯耆町溝口647番地
TEL 0859-62-0927
参考 平成22年版
『家庭教育手帳 小学生(低学年~中学年)編』
発行者：文部科学省生涯学習政策局
男女共同参画学習課家庭教育支援室
印刷・製本 有限会社 米子プリント社